

れき じん

となん歴史民だより vol.61

Morioka tonan history and folklore museum

令和元年12月27日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228

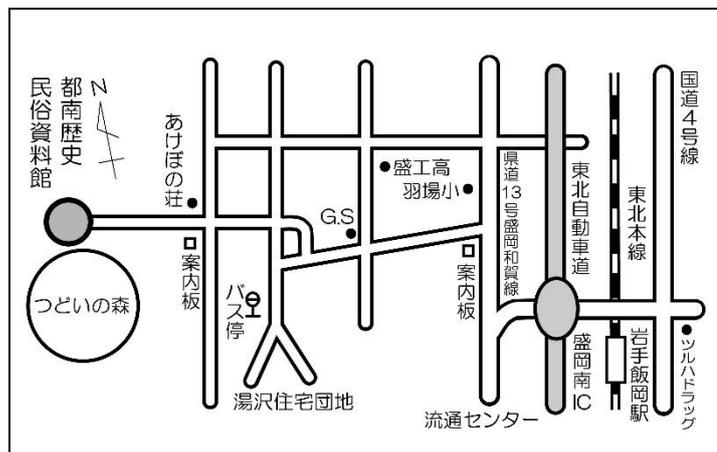


是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 時代背景から考える盛岡市(都南地区)の小学校の創立と校歌
- 秋の事業報告
- かけはしの会通信
- 資料は語る(61)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介(61)
- となんの先人④

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、直近の平日)、年末年始

時代背景から考える盛岡市（都南地区）の小学校の創立と校歌

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 作山文康

「となん・かけはしの会」主催の茶話会で「時代背景から考える盛岡市（都南地区）の小学校の創立と校歌」という題で講話を行いました。そこで、その内容の一部を抜粋・要約して掲載したいと思います。

①小学校の創立について

明治5年の学制発布により、明治6年から小学校が創立されました。当時の小学校の校名は番号で表されていました。例えば、第7大学区岩手県管内第18番中学区第1番小学校（現仁王小）、第7大学区岩手県管内第8番中学区第27番小学校（現見前小学校）、第7大学区岩手県管内第8番中学区第41番小学校（現手代森小学校）などです。

それは、明治政府が郡村制を廃して新たな行政制度（大区・小区）を設けたことで、全国を7大学区に分け、その中に32中学区を置き、さらに210の小学校を置くという文部省の方針によるものでした。

しかし、番号により様々な不都合が生じ、すぐに村名や学校名が使われました。明治12年の郡村制の復活により、例えば、岩手県陸中国紫波郡津志田村公立津志田小学校、岩手県陸中国紫波郡永井村公立永井小学校などのような名称になりました。

その後、度重なる教育制度の変更により、尋常小学校（尋常高等小学校）、国民学校と名称が変わりました。さらに、明治23年の市制・町村制の実施、市町村の合併（明治・昭和・平成）、そして学校の統廃合などにより次々と学校の名称が変わって現在に至っています。見前小学校の例をあげると、今までに8度も名称変更がありました。また、昭和53年創立の羽場小学校、昭和55年創立の津志田小学校などは明治初期に創立され、その後、統合と創立を繰り返し、なんと3度も創立しています。

②小学校の校歌について

明治6年から小学校が創立し始めます。しかし、校歌が制定されるまでに数十年もの時間を要します。

それは、西洋音楽を研究し、日本の音楽文化を作るため、唱歌を指導する教育者を養成するため、唱歌集を編集するために時間を費やしたからです。なんと、小学校の教科である唱歌が必修化になったのは明治43年でした。

唱歌集が編集され始め、明治24年には小学校で行われる儀式で唱歌を歌うことが義務付けられ、明治27年には小学校で歌うすべての唱歌は文部省の許可が必要となりました。

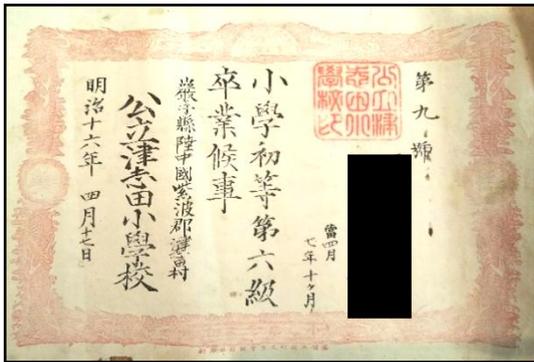
明治30年代から校歌が制定され始めましたが、今のように校歌を自由に制定することができず、文部省への申請・許可が必要でした。当然、文部省に校歌を申請しても許可にならない場合もありました。

昭和6年頃から校歌の申請が多くなりました。これは、戦争へと向かう当時の時代背景を反映しています。歌詞は、皇国主義・愛国主義・軍国主義的な内容が多くなりました。

明治6年に創立された見前小学校では、昭和6年に校歌を文部省に申請しますが、不許可になりました。そこで、昭和10年に再度申請し、やっと校歌が制定されました。（このことは、創立百年誌に記載されています。）なんと、校歌が制定されるまでに60年以上もかかったこととなります。明治7年創立の手代森小学校の校歌は昭和16年に制定されました。

戦後の教育改革により戦前に制定された校歌はどうなったのでしょうか。戦前の校歌を歌い続けている学校、歌詞の一部を省略して歌い続けている学校、新しく校歌を制定した学校など様々です。

昭和22年に校歌の許可制度がなくなり、新しく制定された校歌には、自由・平和・希望を前面に出した歌詞が多くなりました。また、文語体から口語体に、そしてカタカナや英語も使われるようになりました。さらに、最近では、校歌に題名がついたり、有名なアーティストが作詞・作曲したり、校歌の作詞・作曲の公募制なども行われたりしています。校歌の制定についても、時代背景が色濃く反映されています。



公立津志田小学校時代の卒業証書（当館蔵）

昭和6年に申請した見前小学校の校歌（見前小学校所蔵）

秋の事業報告

●移動資料展「となんの昔の米づくり」 および 関連事業「地元学講座」

都南公民館との連携事業である「都南歴史民俗資料館移動資料展」を、10月26日（土）～10月27日（日）の2日間開催いたしました。今年度は「となんの昔の米づくり」をテーマに、^{くわ}鋤、田下駄、^{せんぼこ}千歯扱きといった農具や、^{はじき}粃痕のついた土師器、^{めしびつ}飯櫃など米にまつわる道具を展示しました。

また、関連事業として全3回の「地元学講座」も共催として行いました。①館外研修「都南地区湯沢～大ヶ生巡り 大ヶ生山伏神楽鑑賞」では、10月22日（火）に、当館見学後、大ヶ生の瀧源寺、大萱生氏墓所を見学、さらに古民家で大ヶ生山伏神楽を鑑賞いたしました。②同26日（土）には当館館長による講話「時代背景から考える盛岡の小学校の創立と校歌」及び神楽鑑賞報告会、③同27日（日）には製作体験「スゲで防寒具ハバキ&小窓用スダレを作ってみよう」を開催しました。

「となん・かけはしの会」通信

●史跡・文化財巡り

今年度の史跡・文化財巡りは、北上市にスポットを当て、10月17日（木）に開催しました。

初めに見学したのは立花毘沙門堂です。管理人の方にお話し、普段は収蔵庫に収められている木造毘沙門天立像と木造二天王立像（いずれも国指定重要文化財）を、解説付きで拝観しました。次は北上市立博物館で、職員の方の解説を受けながら企画展「北上川舟運と海」を、さらにボランティアガイドの方の案内でみちのく民俗村の藩境塚などを見学しました。昼食を挟んで、かけはしの会副会長の解説で国見山廃寺跡（極楽寺遺跡）と^{ひじりづか}聖塚（河野通信墓所）を見学しました。

天候にも恵まれ、盛りだくさんの内容となりました。各所の解説をしてくださった方々、企画から手配、さらに解説も受け持ってくださった副会長に、この場をお借りして御礼申し上げます。



北上市立博物館での企画展見学の様子



【十月仏掛軸 4幅】

岩手の民間信仰のひとつに、「まいりの仏」がある。様々な呼び名があるが、都南地区では「十月仏」と呼ばれる。その名の通り旧暦10月の御縁日に、信者が米や銭などの供物を持参し、別当家に吊るされた掛軸にお詣りをする行事である。別当家では、礼拝者に精進料理を振る舞う。

掛軸は「南無阿弥陀仏」の六字名号、八方放光の阿弥陀如来、聖徳太子が描かれた3幅一対がよく見られるが、一軸のみの場合や不動明王などが描かれる場合、掛軸ではなく木像、など多彩なバリエーションがある。当館所蔵のものは4幅1組で、六字名号、阿弥陀如来2幅、孝養太子という構成である。

岩手県中南部に多くみられる風習だが、この地域への伝播には親鸞の高弟是信房やその他遊行者らが関与していると推測されている。

国指定重要文化財



岩手大学農学部(旧盛岡高等農林学校)旧本館・門番所

岩手大学農学部の前身である盛岡高等農林学校の本館として、大正元年(1912)12月に竣工しました。設計監理は、文部省の営繕組織の技手谷口鼎たにぐちなえが担当しました。

寄棟造でスレート葺き、外壁は下見板張りで、正面にバルコニー付の車寄せ(風除室)がついた左右対称の造りです。

明治期に創設された国立専門学校のうち、中心施設の建物が現存する例は数少ないためとても貴重です。現在は農学部附属農業教育資料館として公開されています。

また、正門(現在の通用門)脇に建てられた門番所は、寄棟風八角形の造りが特徴的です。開校の翌年である明治36年(1903)の建築と推定されています。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

とんの先人④ 教育一家 川村家

下飯岡の川村家(屋号・野崎)は代々地域の子弟教育に大きく貢献した。

下飯岡村に寺子屋を開いた二代目佐平太は、寛政三年(一七九一)の生まれである。幼少時には紙の代用として壊れた膳に敷き詰めた灰をなぞり、筆の代用として藤の茎を打ち砕いた繊維を束ねて使用し、手習いに勤しんだ。

地域からの要望で、安政年間に自宅の常居と座敷を教室に充て寺子屋を開設した。極めて厳格な教授を行ったといい、明治五年末頃の教え子は四十人ほどだった。

佐平太がまとめた『百姓用向』は弘化四年(一八四七)以前の著と推測されている。内容は岩手郡篠木村の武田三右衛門の『百姓用達俗言集』の一部を抄録したものである。

明治六年(一八七三)に八十二歳で逝去した。

三代目佐平太は、二代目の長男で、学識深く、父の死去に伴い跡を継いで寺子屋の師匠となった。学校制度が整い、明治七年(一八七四)に下飯岡学校(現在の市立飯岡小学校の前身のひとつ)が創立されると、引き続き首座教員として同二十年(一八八七)の退職まで十四年間教育薫陶に励んだ。明治四十四年(一九一)一月十七日に老衰のため亡くなったが、同年のうちに子弟らの手によって長善寺境内に彰徳碑が建立された。

四代目修蔵は、三代目の子※で、明治十八年(一八八五)、公立岩手師範学校を卒業すると同時に下飯岡小学校訓導となり、同三十三年には飯岡尋常小学校訓導兼校長に就任した。大正八年(一九一九)三月に依願退職するまで母校に三十三年もの間勤務し、翌年九月二十七日に逝去した。

※『都南村誌』では三男、『飯岡小学校百年史』では二男となっている

参考文献『都南村誌』(都南村誌編集委員会、一九七四)

『岩手近代教育史』(岩手県教育委員会、一九八一)

『飯岡小学校百年史』(協賛会百年誌編集部、一九七五)